

認知症初期集中支援推進事業
(認知症初期集中支援チーム)
実績集計
(令和4年4月1日～令和4年12月31日報告分)

1. 各区 チーム訪問支援対象者数 実績
2. 各区 月別 チーム訪問支援対象者数
3. 全市集計 チーム 性別・世帯・年齢階級
4. 全市集計 チーム 相談経路・情報媒体
5. 全市集計 チーム終了ケース分析 主治医・サービス・DASC
6. 全市集計 チーム終了ケース分析 介護度・診断
7. 全市集計 チーム終了ケース分析 相談時期 支援の理解
8. 全市集計 チーム終了ケース分析 拒否の有無 終了後

1. 各区 訪問支援対象者数 実績 (令和4年4月1日～令和4年12月31日報告分)

表-1

(人)

年度	北区	都島区	福島区	此花区	西淀川区	淀川区	東淀川区	旭区	中央区	西区	港区	大正区	天王寺区	浪速区	東成区	生野区	城東区	鶴見区	阿倍野区	住之江区	住吉区	東住吉区	平野区	西成区	総計
2021継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	11	0	0	0	0	0	0	18
2021終了	92	3	7	36	54	20	23	15	15	8	72	12	6	2	11	17	52	48	22	16	26	10	17	17	601
2021対象外	0	0	0	17	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	24
2021計	92	3	7	53	55	20	23	16	15	8	74	12	6	2	11	17	60	60	22	17	26	10	17	17	643
2022継続	10	4	12	15	13	5	12	14	7	9	19	10	9	12	19	14	27	11	21	14	26	28	18	7	336
2022終了	37	19	21	22	16	20	11	13	13	19	25	21	11	12	48	30	22	16	13	22	27	16	24	19	497
2022対象外	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	1	8
2022計	47	23	33	40	29	25	23	27	20	28	44	31	20	24	68	44	49	27	35	37	54	44	42	27	841
稼働総計	139	26	40	93	84	45	46	43	35	36	118	43	26	26	79	61	109	87	57	54	80	54	59	44	1,484
2022訪問支援対象者計	47	23	33	37	29	25	23	27	20	28	44	31	20	24	67	44	49	27	34	36	53	44	42	26	833

※「対象外」は、対象者情報を把握したが、アセスメント等を実施した結果、初期集中支援の対象とはならないものと、チーム会議で判断したもの。(例:すでに認知症にかかる医療、介護サービス両方を受けていた場合など)
※年度内以前の終了ケース(モニタリングのみ)を除く

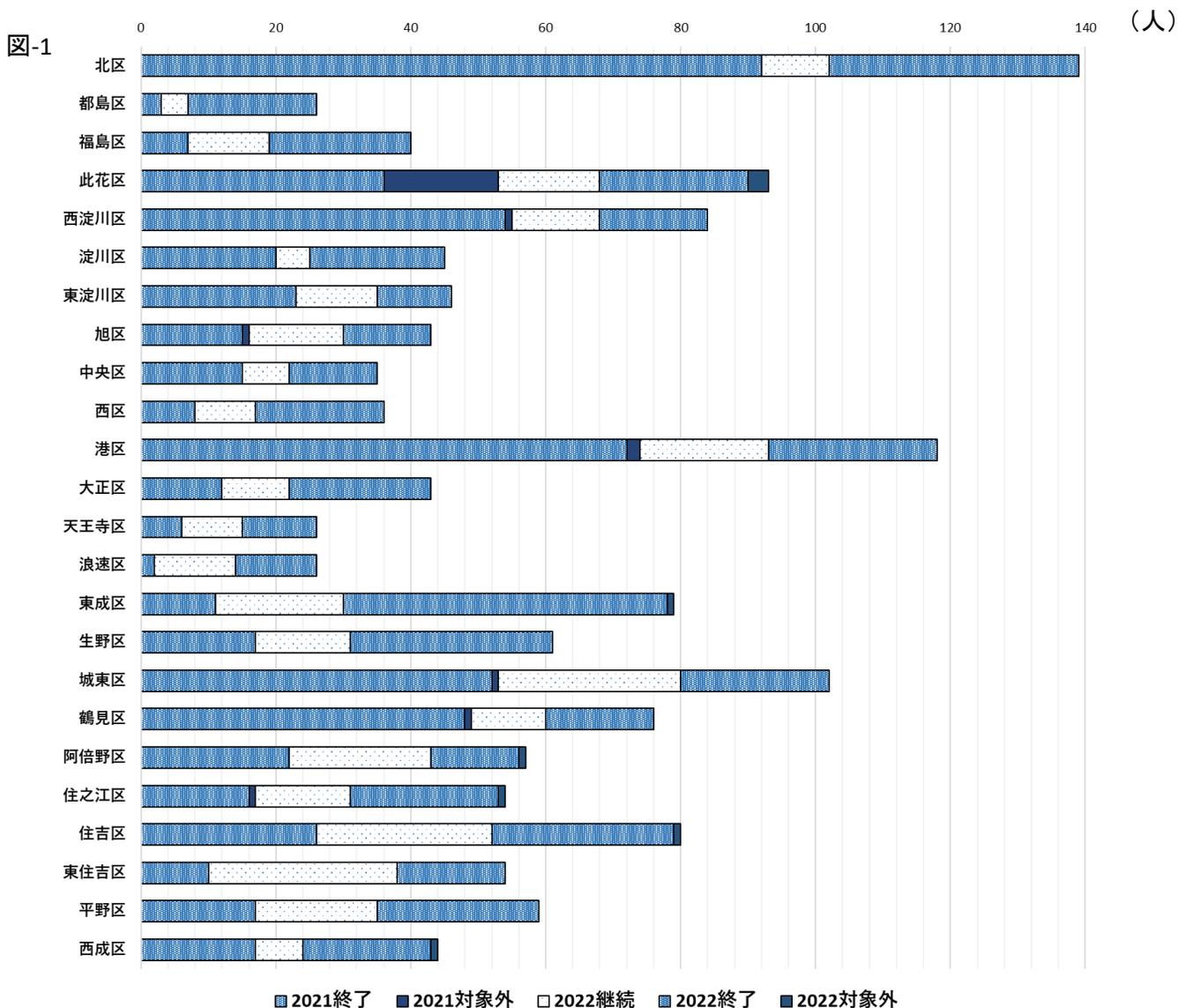


表-1 図-1 R3.12月時点の把握数は895人で62人の減少となっている。対象外について、R3.12月時点では37人だったが今年度は12月時点で8人と減少している。

2. 各区月別 訪問支援対象者数

(令和4年4月1日～令和4年12月31日把握分 対象外を除く)

(人)

表-2

区名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計	月平均
北区	4	7	4	3	6	2	8	7	6				47	5.2
都島区	1	2	2	4	5	4	4	0	1				23	2.6
福島区	5	2	7	1	6	4	1	4	3				33	3.7
此花区	2	5	3	5	3	4	5	6	4				37	4.1
西淀川区	5	2	2	3	2	4	4	2	5				29	3.2
淀川区	0	4	3	1	5	2	5	3	2				25	2.8
東淀川区	4	4	2	1	1	3	2	5	1				23	2.6
旭区	2	2	6	3	1	2	3	5	3				27	3.0
北エリア計	23	28	29	21	29	25	32	32	25	0	0	0	244	27.1
中央区	4	1	2	3	3	2	3	1	1				20	2.2
西区	1	2	3	4	6	3	4	3	2				28	3.1
港区	6	4	7	2	10	2	2	6	5				44	4.9
大正区	4	0	2	4	3	4	7	4	3				31	3.4
天王寺区	3	0	1	4	5	4	2	1	0				20	2.2
浪速区	5	0	4	2	2	1	2	5	3				24	2.7
東成区	10	4	9	6	5	12	4	11	6				67	7.4
生野区	4	7	9	3	5	5	3	5	3				44	4.9
城東区	10	5	7	7	2	6	3	6	3				49	5.4
鶴見区	3	5	7	1	3	2	3	1	2				27	3.0
中央エリア計	50	28	51	36	44	41	33	43	28	0	0	0	354	39.3
阿倍野区	5	5	3	3	3	5	5	1	4				34	3.8
住之江区	6	3	3	2	9	1	6	6	0				36	4.0
住吉区	5	5	7	5	5	5	9	9	3				53	5.9
東住吉区	3	2	4	8	5	7	5	5	5				44	4.9
平野区	6	5	7	3	5	4	8	1	3				42	4.7
西成区	0	3	3	7	3	2	3	4	1				26	2.9
南エリア計	25	23	27	28	30	24	36	26	16	0	0	0	235	26.1
総計	98	79	107	85	103	90	101	101	69	0	0	0	833	92.6

エリア別月別訪問支援対象者の推移

図-2

■北エリア計 ■中央エリア計 ■南エリア計

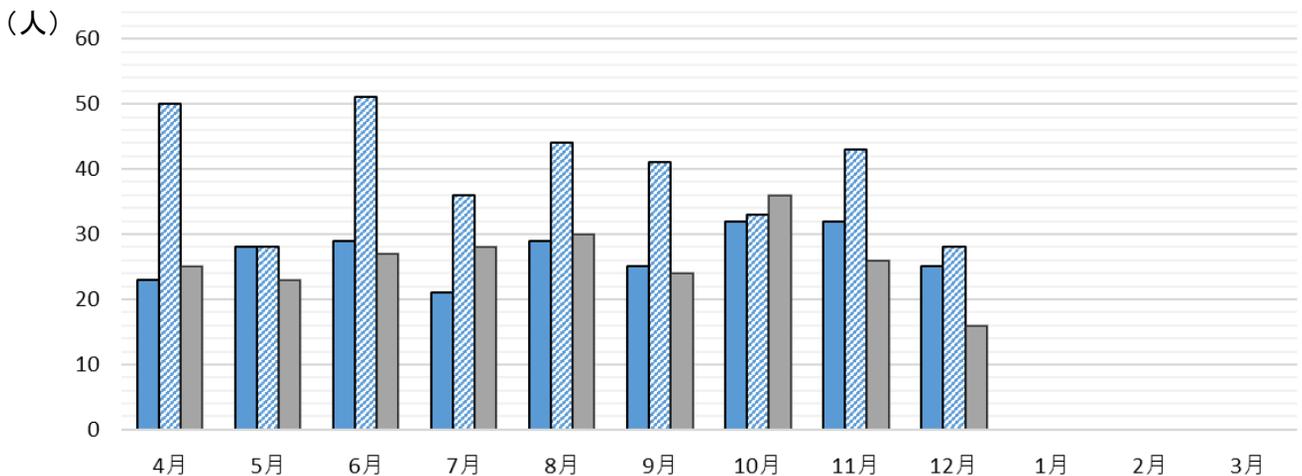


表-2 R3年度の月平均把握数は98.1人で5.5人減。

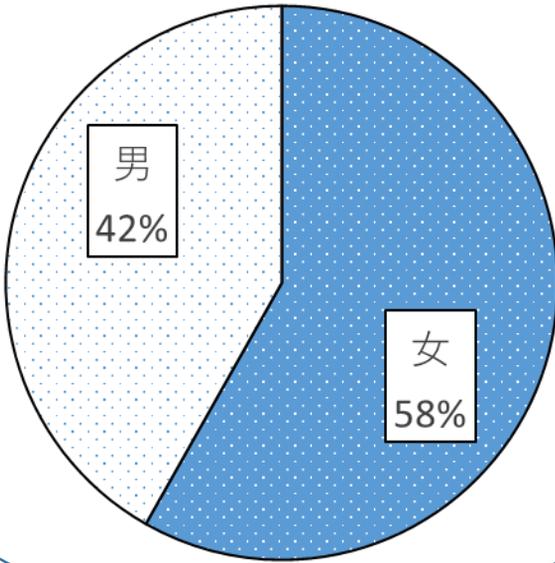
図-2 エリア別では、北は10月・11月、中央は6月、南は10月に増加。北は7月、中央は5月・12月、南は12月に減少。

3. 全市集計 性別・世帯・年齢階級

(令和4年4月1日～令和4年12月31日把握分 対象外を除く) N=833

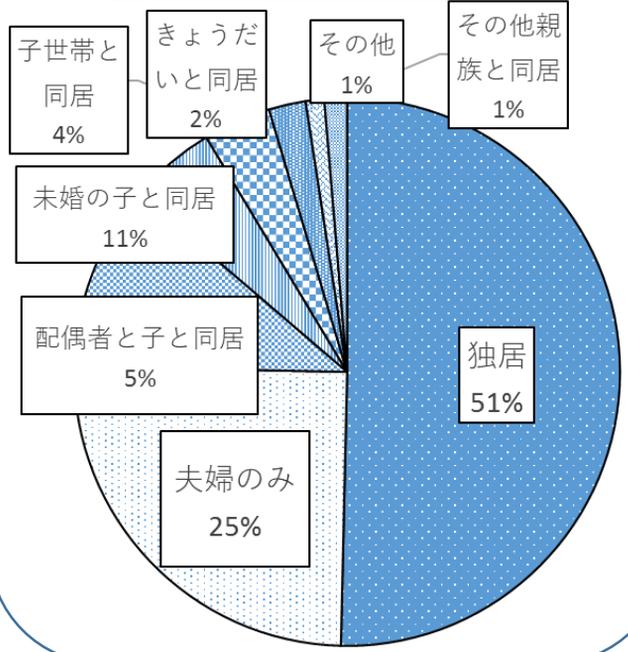
性別

図-3



世帯別

図-4



年齢階層別・性別 訪問支援対象者数

図-5

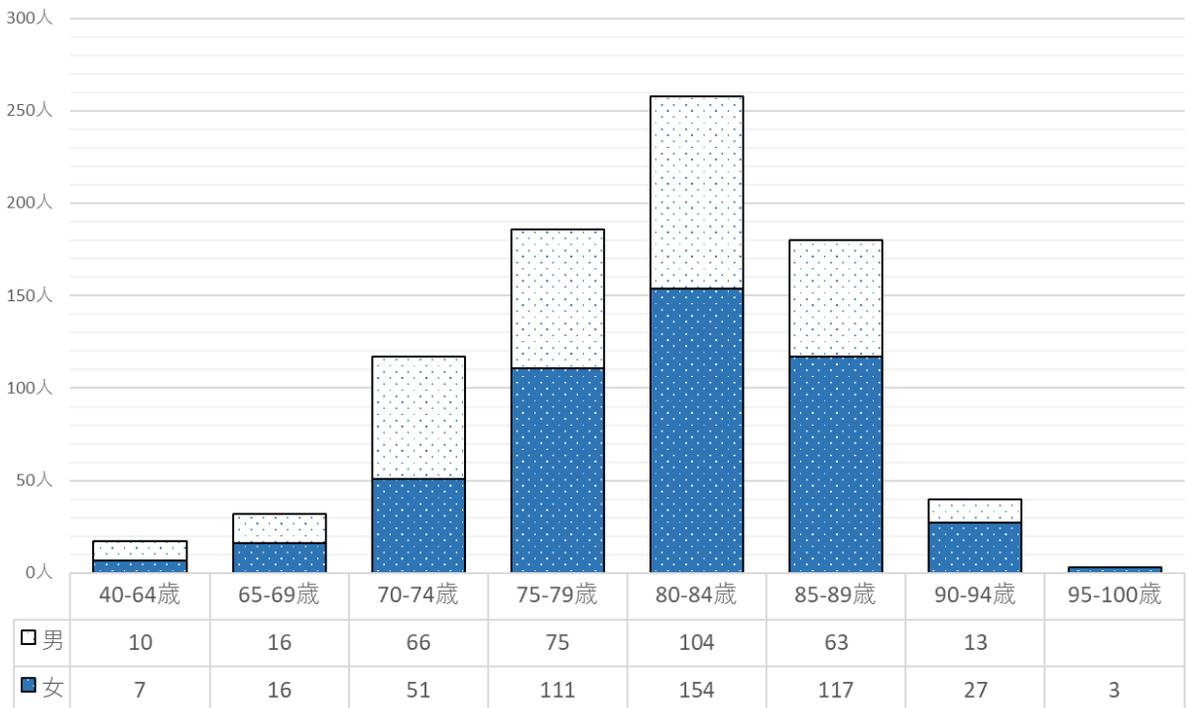


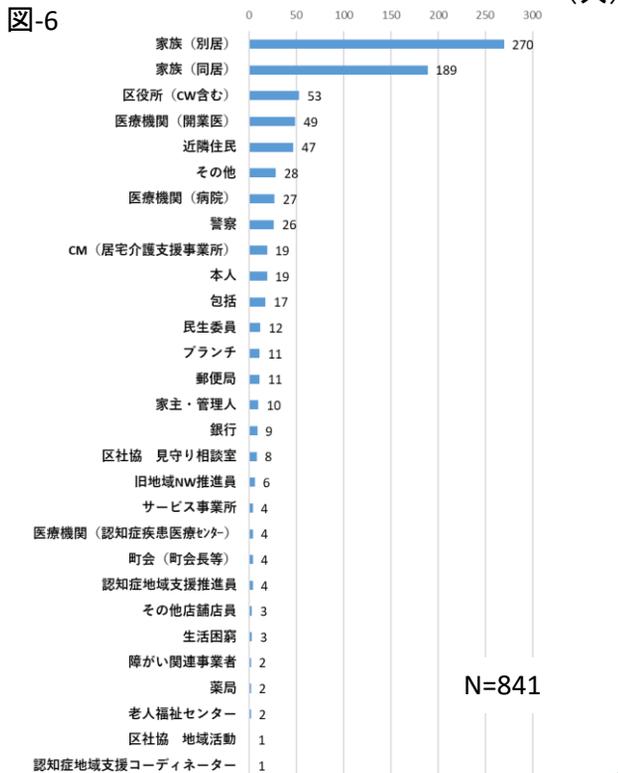
図-3 R3と比較して、男性が3%増加している。 図-4 R3と比較して独居が3%増加、夫婦のみの世帯が4%減少している。

図-5 例年と同様80-84歳代が最も多くなっている。

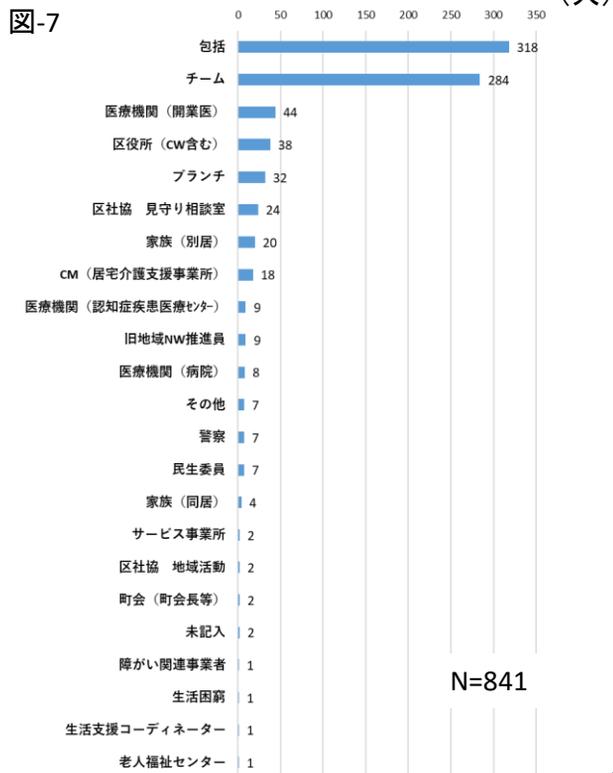
4. 全市集計 相談経路・情報媒体

(令和4年4月1日～令和4年12月31日把握分)

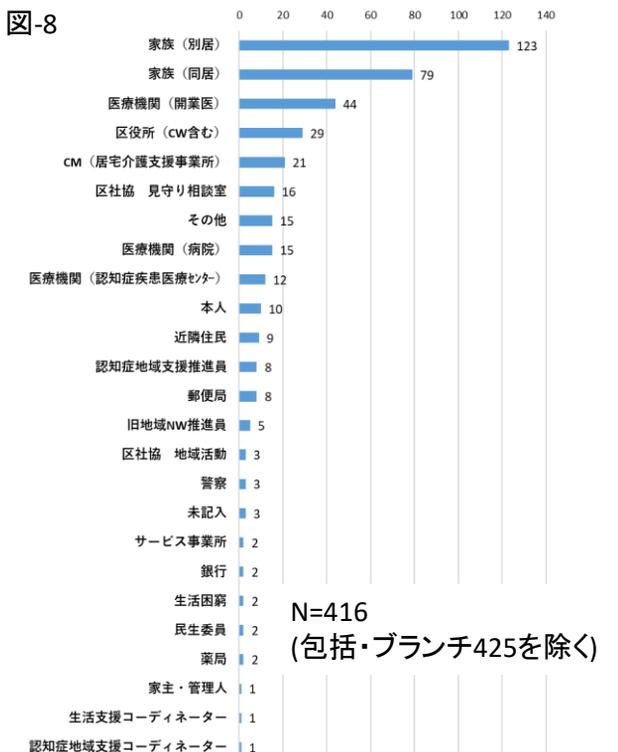
最初に気づいた人



相談者が最初に連絡した機関



チームに直接つないだ機関



チームの情報を得た媒体

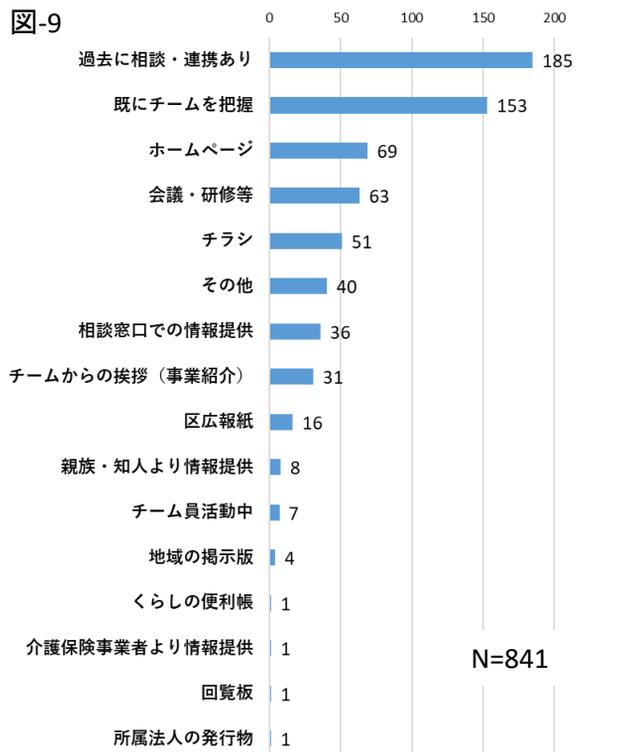
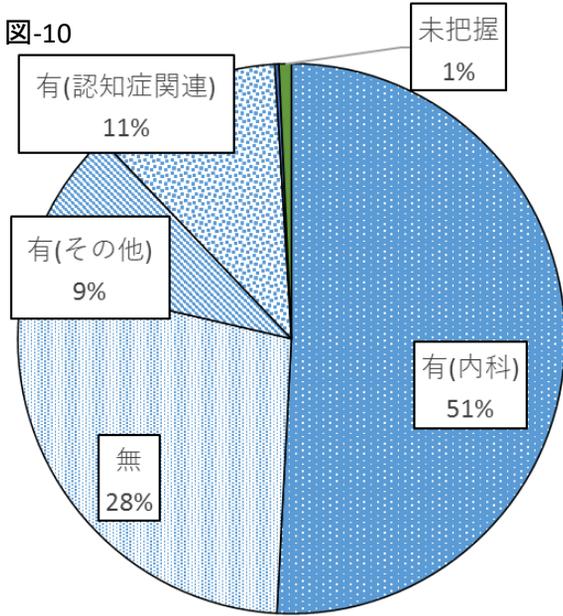


図-6、8 昨年度は同居家族が1位だったが、今年度は12月時点で別居が上回っている。

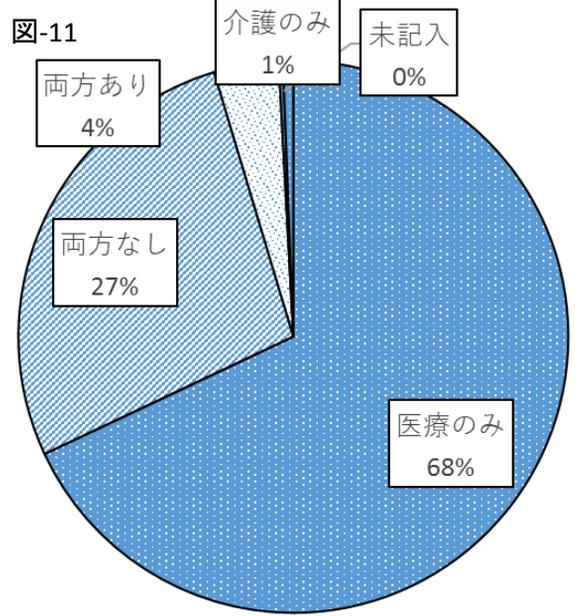
図-9 連携済みの機関からの相談が最も多くなっている。

5. 全市集計 終了ケース分析 主治医・サービス・DASC
 (令和4年4月1日～令和4年12月31日報告分 年度内終了ケース) N=822

主治医の有無

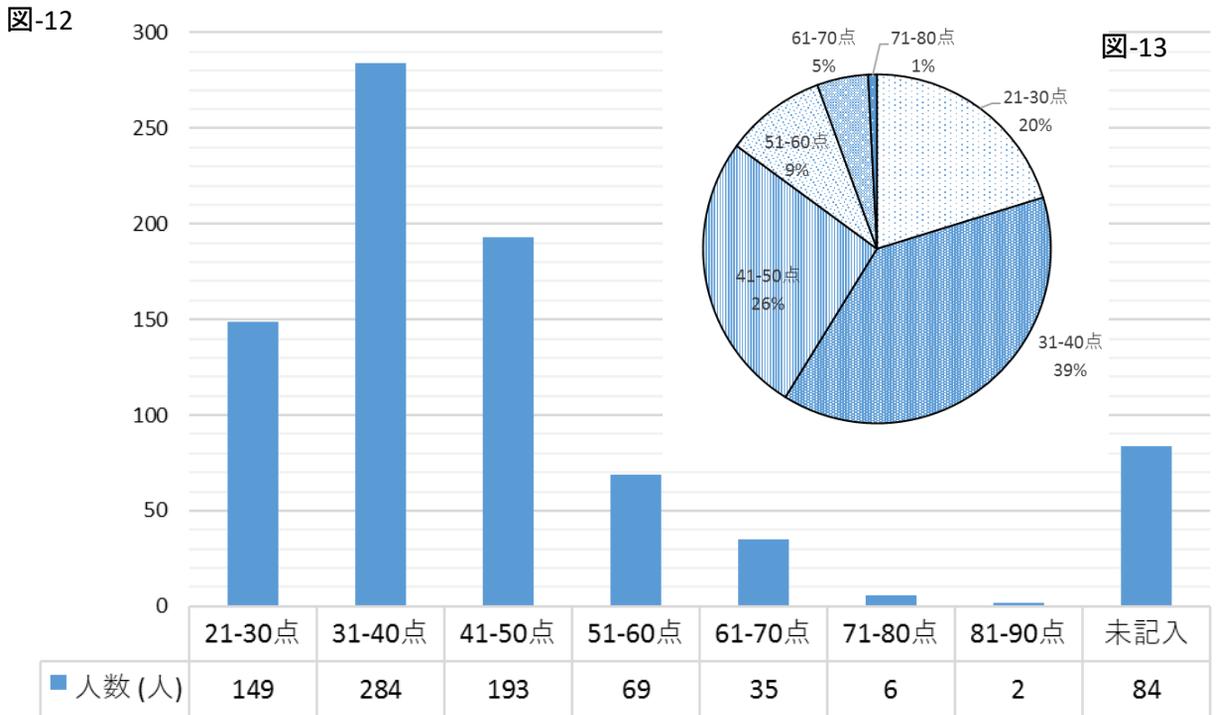


介入時サービス



(介入時)アセスメント結果(DASC)

(合計点が31点以上の場合、「認知症」の可能性ありと判定)



※図-13は「未記入」を除いたN=738の割合。

図-10 R3と比較して内科主治医のあるケースが4%減少。図-11 R3と比較して医療のみが1%減少し、両方なしが2%増加。
 図-12 DASC-21未記入は12月時点で84人。昨年度末は121人。約1割が未記入となっている。

6. 全市集計 終了ケース分析 介護度・診断
 (令和4年4月1日～令和4年12月31日報告分 年度内終了ケース) N=822

図-14

要介護度別 介入時・後

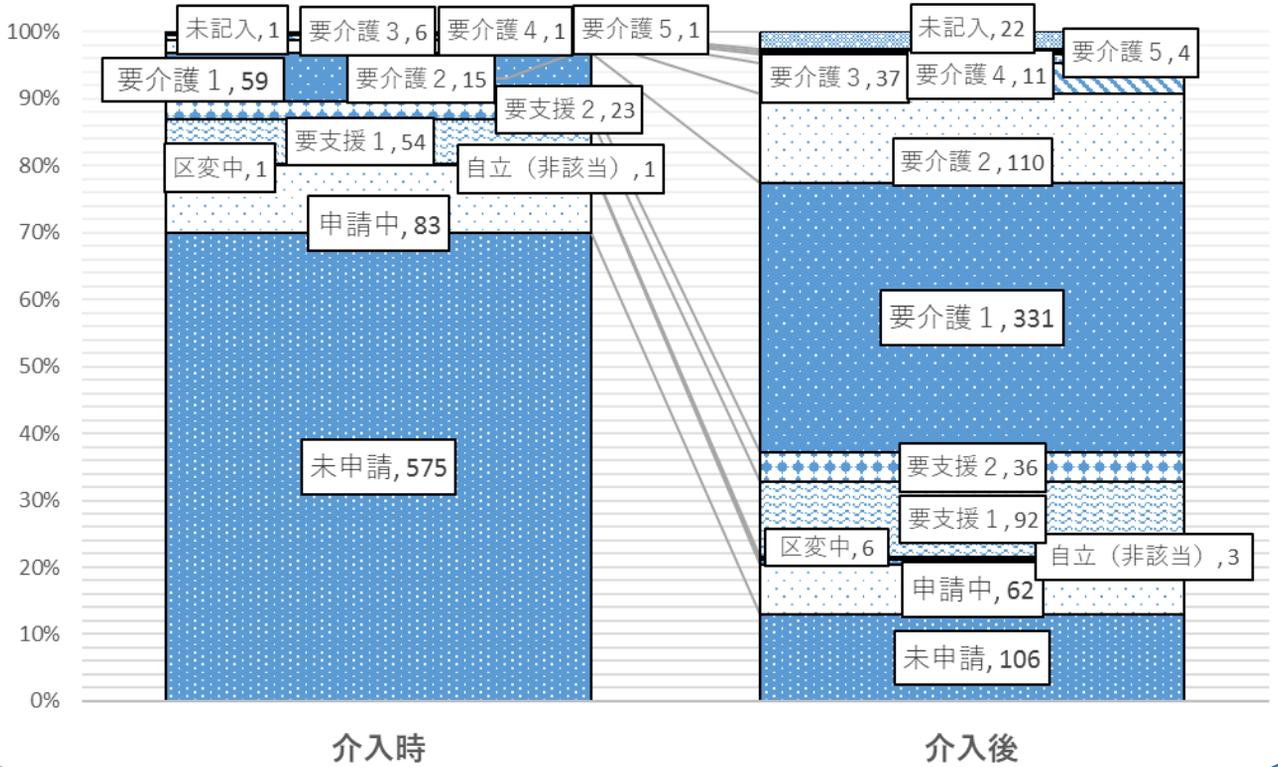


図-15

認知症の診断 介入時・後

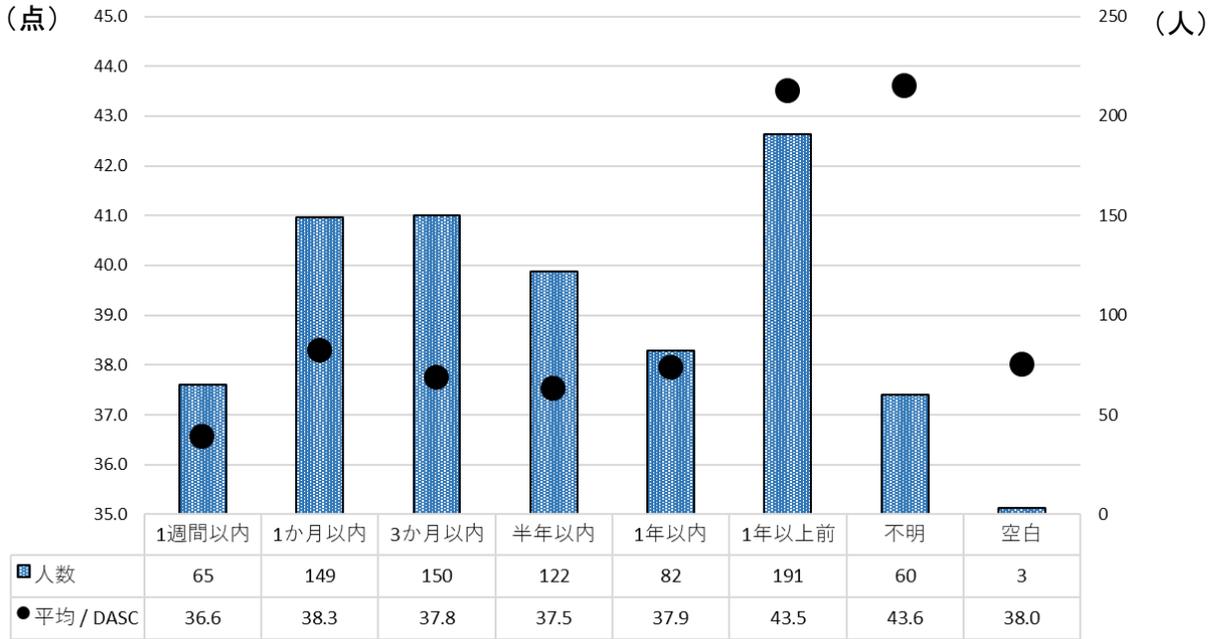


図-14 介護保険未申請者575人の78.3%が申請につながり、R3年度の83.6%より5.3%減少している。
 図-15 なんらかの診断につながった割合は69.3%で前年の70.3%より1%減少。

7. 全市集計 終了ケース分析 相談時期 支援の理解
 (令和4年4月1日～令和4年12月31日報告分 年度内終了ケース) N=822

相談者が認知症を疑い始めた時期と介入時平均DASC

図-16



全体平均日数=108.1

支援必要性の理解と世帯別平均支援日数

図-17 介入時 支援必要性の理解 (本人)

図-18 介入時 支援必要性の理解 (家族等)

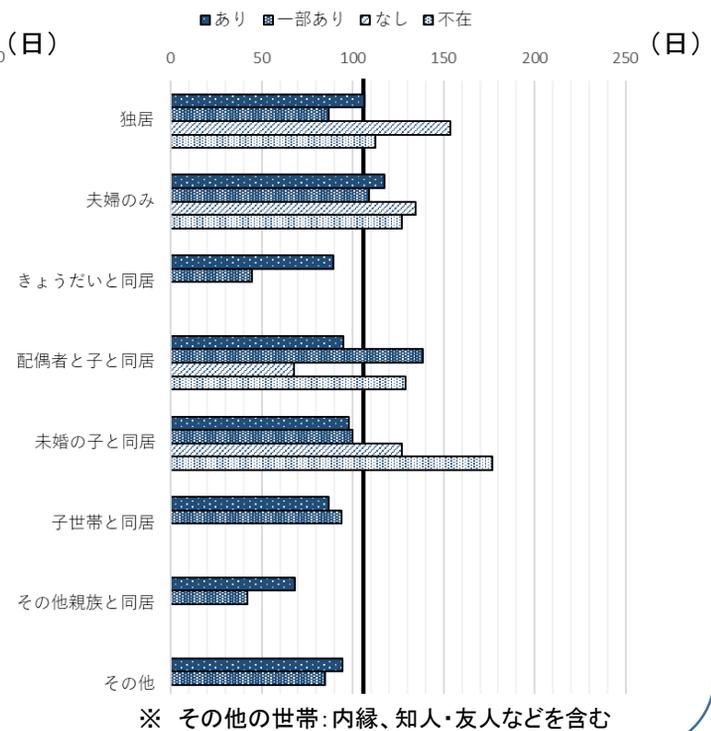
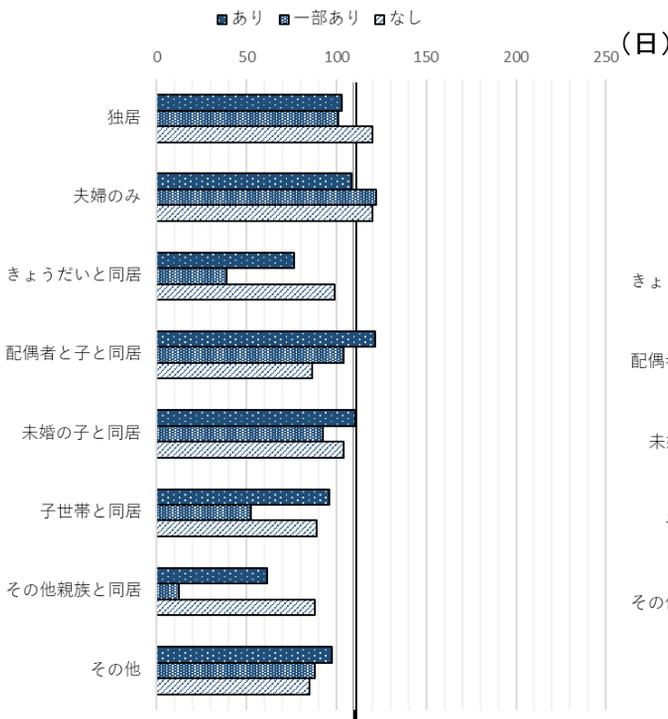
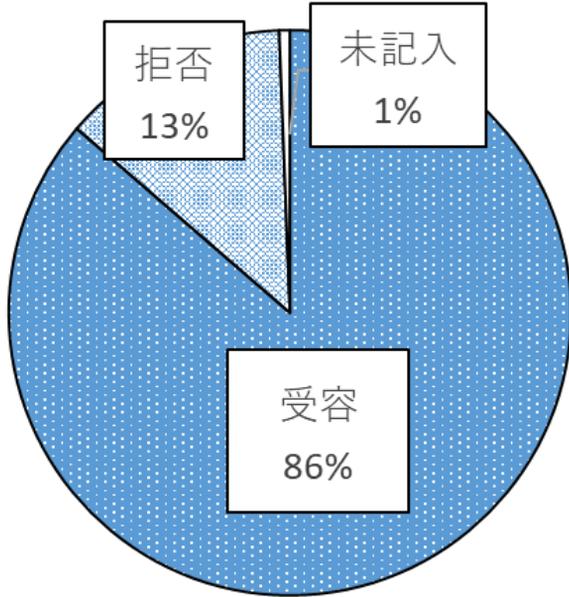


図-16 1年前以上の気づきが最も多い。
 図-17・図-18 支援日数の全体平均が108.1日であり、R3年度の114.4日より6.3日減少している。

8. 全市集計 終了ケース分析 拒否の有無 終了後
 (令和4年4月1日～令和4年12月31日報告分 年度内終了ケース) N=822

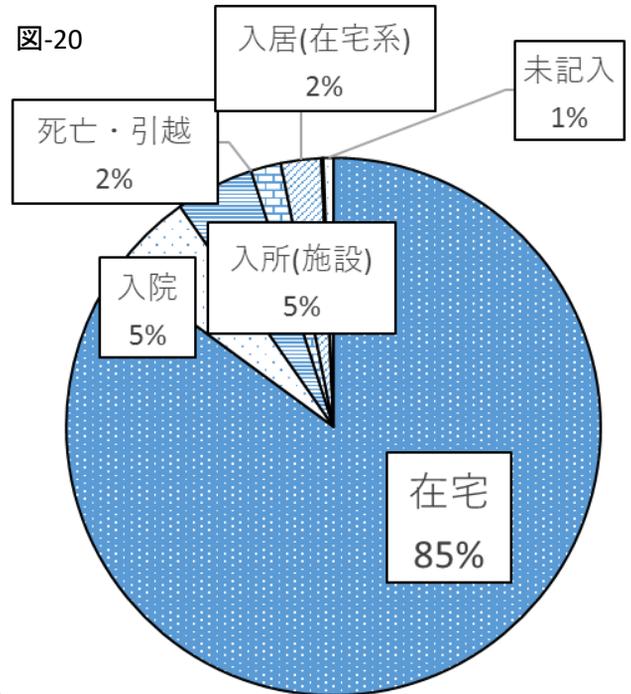
チーム員の関わり方に対する姿勢(本人)

図-19



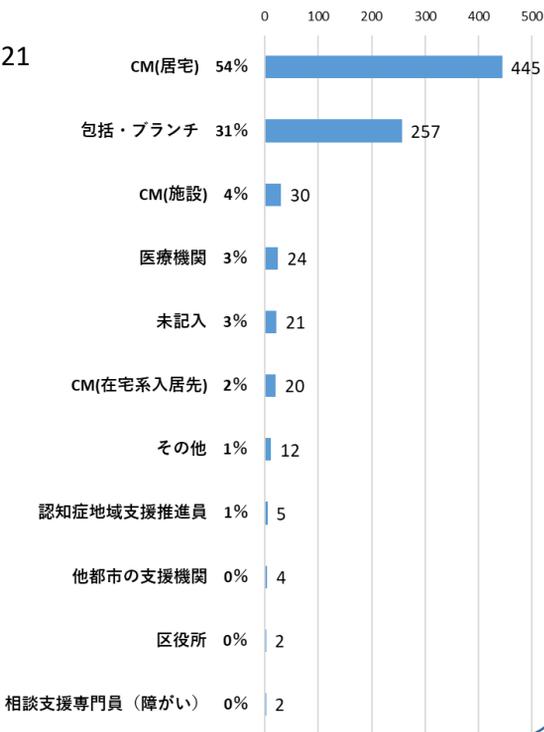
支援終了後の生活場所

図-20



支援終了後の主な引き継ぎ先

図-21



引き継ぎ先が包括の理由

図-22

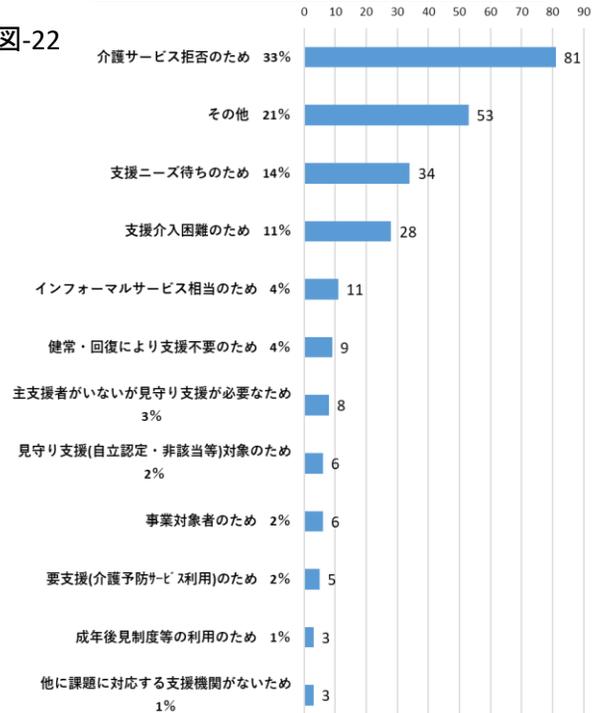


図-19・図-20 前年とほぼ変化はない。図-20 在宅はR3年度同様に高い割合を維持している。
 図-22 今年度より項目を細分化し、サービス拒否が最も多い割合を占めた。